

家族のつながり

山形県 白鷹町立鮎貝小学校 六年

齋藤 龍太

『神様に感謝だね。』

この言葉の意味を知った時、ぼくはこの家に生まれて来て良かったと思いました。

ぼくは、四年生の終わり頃から目の前が暗くなったり、めまいがしてフラフラしておれてしまう病気になる、今もその病気と戦っています。そのため、多くの人達に心配をかけたり、助けてもらったりしています。でも、その事で一番苦しい思いをしているのは、お母さんでした。たおれてしまう原因がわからず、いろんなお医者さんに行きました。ぼくは自分の事しか考えていなくて、お母さんの心が悲鳴を上げている事には全く気がつきませんでした。

ある日、ぼくはお父さんと一緒にお風呂に入っていると

「お母さんには優しくしような。泣いてるぞ。」

と、お父さんに言われたのです。なかなか病気が治らない事にイライラすると、そのたびお母さんにやつあたりをしていました。二人共、大きな声を出して気持ちをぶつけ合った事は数えきれません。そんな時でも、

「なんでも考え方ひとつだよ。悪く思えばそうなるし、良く思えばどんどん良い方向に

進むから。心配ない。ない。」

と、笑って言ってくれていたもので、まさか泣いていたなんて思ってもいませんでした。いつもニコニコと笑っていたり、ジョーダンを言うお母さんが泣いているとは、ぼくは考えもしていませんでしたが、それはお母さんの精一杯の強がりと優しさだ。とお父さんから聞かされました。眠れない日が何日もあったということも聞きました。

何日かして、三人で散歩に行くと、お母さんは

「この時間が最高に幸せ。神様に感謝だね。」

と言ったのです。なんで神様に感謝なんだろう。病気をして、いい事なんてひとつもないこの状況なのにどうしてなのか、お母さんに聞いてみました。ぼくぐらいの年になると、親と出かけるのをイヤがったり、あまり会話もしなくなったりする子供さんが増えているけれど、

「病気と戦うことによつて親子の大切な時間をたくさん頂いているから。」

と言ったのです。お母さんは、悪くは受け止めず、いつも前向きに考えます。この事は、ぼくの大きな力にもなっています。ぼくが病気になった事でお母さんの弱さも知り、そのお母さんをいつもそばで支えてくれていたお父さんの強さも知ることができて、マイナスだけじゃなく、家族のつながりと思いやりを強く感じる事ができました。みんなに言いたいです。ぼくには、こんなに素敵な家族がいることを。

「ありがとう。」